



事業内容

化学物質が子供の健康に与える影響を明らかにするための長期的・大規模な追跡調査

- ＜特徴＞
- ①10万組の親子が参加、
 - ②約450万検体の血液、尿等を計画的に分析、
 - ③2010年代の化学物質の実態を反映したものとしては世界に例のないもの

2016年のG7富山環境大臣会合において、高く評価され、引き続き実施することとされている。

エコチル調査は8年目を迎え「新たなフェーズ」へ



- ### 調査内容
- 妊娠期・学童期に生体試料の採取
 - 質問票調査(半年ごと)
 - 5千人に対する詳細調査(環境測定、医学的検査等)

- 40本の学術論文が掲載(平成30年7月時点)
- 論文執筆の進捗は順調
- 今後加速化の時期

「新たなフェーズ」における取組(2019年度)

1. 「子どもの成長」(先頭集団は小学生へ)

参加者維持・データ収集 ⇒ 子どもの成長に合わせた「**新たなデータを集積(学童期検査)**」

2. 「研究の加速」(参加者維持・データ収集から本格的に論文発表する時期へ)

分析・解析から論文発表 ⇒ 研究を加速・推進するために、「**化学分析の計画的実施**」

3. 「科学的成果の社会還元」 ⇒ 「**地域の子育て世代との対話**」

「地域の子育て世代との対話」

- 「子育て世代」同士や医療、行政、科学学習等の関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う環境
- 正しくリスクをさげ、化学物質のリスクと上手に向き合う社会へ(パニックでなく、合理的な行動へ。)

「化学物質のリスクと上手に向き合う子育て環境づくり」(地域循環共生圏)

安全・安心な子育て環境の実現

政策への反映(EBPM) ○化学物質管理施策への活用(化学物質の製造、輸入、使用に対する規制的措施、自主的取組の促進等)

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) (うち、地域の子育て世代との対話事業)

2019年度要求額
64百万円(新規)

資料2-4②

背景・目的

- ✓ 化学物質の利用は生活を豊かにするため、質量ともに増えているが、子どもの健康影響については未解明な点が多い。エコチル調査では、この点について科学的に研究を推進
- ✓ これから、エコチル調査の研究成果として学術雑誌での掲載が増えていく見通し(将来的には、化学物質管理等での活用も期待)
- ✓ 一方で、子育て世代は身の回り物に含まれる化学物質に漠然とした不安を抱えている。リスクに関してネット・TV・雑誌で報道されるが、判断に悩む例は少なくない。正しくわかりやすい情報提供が必要
- ✓ さらに、自分の関心に引き付け受け止め、暮らしの中で上手に向き合うための施策が必要
- ✓ 子育て世代と関係者が化学物質のリスクについて向き合うことが可能な機会を広げるため、本事業を行う

事業概要

- ① 基本情報として、化学物質やその健康影響の一般的な内容を伝えるパンフレットや、エコチル調査の研究成果をわかりやすく伝えるQ&A等の素材を作成し、提供
- ② 子育て世代と、地域での双方向性の対話を通じ、化学物質のリスクとの上手な向き合い方の実践活動を促進。実践例は事例集・ガイドライン化し、全国展開

事業スキーム 環境省 → 事業者

期待される効果

- ✓ 子育て世代が、化学物質のリスクと上手に向き合うことが可能(正しくリスクを低減する行動等)
- ✓ 「子育て世代」同士や医療、行政、科学学習等の関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う地域環境(地域循環共生圏)

事業目的・概要等

小児を取り巻く環境と健康影響
について未解明な点が多い現状

子育て世代の不安の解消

イメージ

- ① 子育て世代の悩み・不安に沿った形で基本情報をわかりやすくまとめ提供
- ② 加えて、化学物質のリスクと上手に向き合うため、自分の関心に引きつけ、受け止める機会を増やす

子育て世代と地域の関係者と双方向性の対話(本事業)

①パンフレットやQ&A等対話の基本情報

基本情報を活用し地域で実践例を創出



- ✓ 対話の内容
 - ・化学物質のリスクとの向き合い方や暮らし方について実践上の課題や方法等
- ✓ 対話の場・機会の例
 - ・妊娠期に母親学級・父親学級で
 - ・ママ友とサークル等で子育ての悩みとともに など

②効果的な対話の実践に向けた事例集・ガイドライン

- ✓ 実践例を生かして、全国へ対話の拡大

安全・安心な子育て環境の実現

- ✓ 化学物質のリスクと上手に向き合う
- ✓ みんなで支える子育て世代(地域循環共生圏)